

# 宍粟市社協 第4次地域福祉推進計画 (愛称：支え合いふくしプラン)

## 1年次レポート

第4次地域福祉推進計画

支え合いふくしプラン  
令和2年度～6年度

2年度

3年度

4年度

5年度

6年度



見ごたえ十分！大型絵本「はらぺこあおむし」を楽しむみのりこども園の園児。  
市内の保育園やこども園等（24 か所）へ遊具等を贈りました  
～歳末たすけあい運動「みんなでわくわく事業」～



第4次地域福祉推進計画を進める会  
社会福祉法人 宍粟市社会福祉協議会

## 第4次推進計画2年次への節目に



コロナ禍の中で聞こえてくるのは、売り上げ低下、失業、生活困窮、泣き苦しむ声・・・これまで経験したことの無い「見えない敵」との戦いが続いています。ウイルス拡大の状況と予防について、広報やしーたん放送、新聞やテレビなどで盛んに知らされていますが、隣近所の朝の挨拶の中での「無事確認」や「うわさの消去」も大切なことでしょう。

ワクチンを待ちながら、苦難の中で、社会福祉協議会の職員や福祉関係事業所、奉仕団体の方々等、それぞれの立場で精一杯やっています。どのような組織であっても自らを点検することが必要であり、時間を有効にし、仕事の品質を向上させ、住民の皆様の笑顔を一人でも多く見たいと努めていただいています。

その大切な指標が、昨年6月に策定した、私たちの「支え合いふくしプラン」です。コロナウイルスに襲われる混乱の中でこそ、私たち一人一人が健康を保ち、冷静に周囲を見渡し、生きることをさまよう人を見逃さない目を持ち、声をかけ、笑顔で寄り添うことが求められています。それができる自分であり続けましょう。

第4次地域福祉推進計画をすすめる会  
委員長 藤原 誠

# もくじ

1 第4次地域福祉推進計画 1年次（2年度）のまとめ・・・1

2 第4次地域福祉推進計画の概要と進捗状況・・・2

活動目標1 お互いの多様性を認め合う福祉学習・  
協議の場をすすめよう・・・3

活動目標2 地域のだれもが安心できる居場所をつくろう・・・4

活動目標3 地域を支え合うネットワークの充実をはかろう・・・5

活動目標4 地域で見守り活動をすすめよう・・・6

活動目標5 だれもがだれかの役に…ボランティアの輪を広げよう・・・7

活動目標6 地域で防災・減災の意識を高めよう・・・8

活動目標7 暮らしを支える福祉サービスを充実させよう・・・9

活動目標8 地域の身近な相談を受けとめてつなごう・・・10

社協目標1 住民から信頼される組織をつくります・・・11

社協目標2 住民に必要な情報を広く伝えます・・・12

社協目標3 地域福祉活動財源の確保につとめます・・・13

第4次地域福祉推進計画を進める会 委員名簿・・・14



# 1 第4次地域福祉推進計画 1年次（2年度）のまとめ

## 1) 4次計画（5か年計画）がスタート

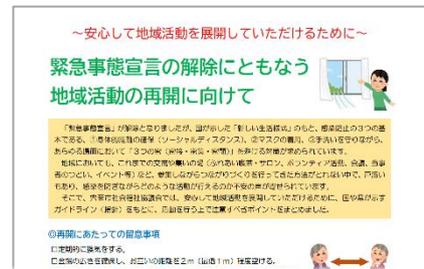


本編・概要版が完成 ～R2.8～

「第41回評議員会（6/17）」での承認を経て、「宍粟市社協 第4次地域福祉推進計画」が完成し、4次計画（5か年計画）がスタートしました。8月には、計画書の本編（500部）と概要版（5,000部）を発行。4次計画では、地域住民や関係機関などと宍粟市の地域福祉を進めていくべき方向性やそれらを具体化した取り組みをまとめています。

## 2) 地域活動や社協活動は大きく影響

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、地域活動や社協活動は大きな影響を受けました。第4次地域福祉推進計画（愛称：支え合いふくしプラン）1年次として、地域のさまざまな活動について中止・延期が相次ぐ中で、新しい生活様式における注意点をまとめたガイドラインを作成するなど「今できること」に取り組みました。



新しい生活様式をもとに作成  
～活動再開のガイドライン～

## 3) コロナ禍で求められた支援やサービス

新型コロナによる休業などが理由で、生活費が必要な方からの相談が後を絶たず、市社会福祉課と連携し、生活福祉資金の貸付や食の支援など、生活困窮者へ継続的に支援しました。

また、週2回の配食サービスは休止を余儀なくされましたが、市内仕出し業者やボランティアの協力によりお弁当を届けることが出来ました。介護や障がい福祉サービスは、緊急事態宣言の最中においても、感染予防対策を徹底しながら、サービスが途切れないよう事業を展開し、利用者やご家族を支えました。



利用者の  
安否確認や  
現状を把握  
し配食  
サービス

## 4) 地域福祉推進計画を進める会で進捗を評価



令和2年度の取り組みを点検・評価  
～R3.3.24～

4次計画を着実に推進するために「第4次地域福祉推進計画を進める会」を設置し、計画の進捗評価を行いました。「活動目標」「社協目標」達成のために個別活動目標に取り組みましたが、コロナ禍での柔軟な対応やコロナの機会を活かした取り組みの提案や実践など、今後を視野に入れた計画の見直しも含め、たくさんの意見やアドバイスをいただきました。

## 5) “ふくしでまちづくり” をみんなで進めていくために



支え合いふくしプラン研修会を開催し、職員・理事・策定委員で学び合い ～R2.10.14～

新型コロナの影響により、社協に求められるニーズや役割にも大きな変化が見られました。

令和3年度では、事業や活動を継続していくためコロナ禍で取り組める工夫やアイデアなど、具体的な提案がさらに必要となります。“ふくしでまちづくり” をみんなで進めていくために、「今できること」を常に考え、コロナ禍で経験した課題や気づきを、4次計画の推進に活かしていきます。

## 2 第4次地域福祉推進計画の概要と進捗状況



「第4次地域福祉推進計画」は、社協の使命と地域福祉の情勢を踏まえ、「みんなですすめよう ふくしでまちづくり ～ “ほっとけない、を ほっとかない 宍粟に～”」を、5年間（令和2年度～6年度）で宍粟市社協がめざす地域福祉目標として定めています。

4次計画では、住民・団体・組織・専門職など、みんなで取り組む「活動目標（1～8）」と、活動目標達成のために社協が取り組む「社協目標（1～3）」を提示し、これらの目標に取り組むために、全体で38の個別活動目標を設定しています。進捗状況は、3頁以降をご覧ください。

## 【活動目標1】お互いの多様性を認め合う福祉学習・協議の場をすすめよう

### ●福祉学習をどのように進めるのか課題に

「福祉学習プログラム」のてびきを活用し、アイマスク・車いす・視覚障がい者の生活と点字体験など、市内6校（延べ161名）へ支援を行いました。感染予防対策により中止となった学校も多く、コロナ禍における福祉学習をどのように進めるのか次年度の課題です。トライやるウィーク（11/16～20）は、感染予防対策を行い、一宮南中・波賀中の2年生（各3名）が本会の事業に取り組みました。



相手の気持ちを考えながら…  
～神野小学校アイマスク体験～



視覚障がい者の大島さんと交流～波賀中学校点字教室～



配食サービスで調理を体験  
～トライやるウィーク～

### ●「みんなでわくわく事業」で園児たちにプレゼント

3密を避けるために、赤い羽根こども劇場（歳末たすけあい配分事業）の鑑賞が中止になったことから、「みんなでわくわく事業」として、市内の幼稚園、保育園・所、こども園、各町子育て支援センターに、幼児向け大型絵本、防災エプロンシアター、ヒノキ製木工玩具「連結トレイン」の3点から選んでいただいたものを贈りました。



木工玩具「連結トレイン」3団体



幼児向け大型絵本 17団体



防災エプロンシアター 4団体

### ●「ふくしの出前講座」で学び合い

コロナ禍で、依頼のあった地域には「ふくしの出前講座」を実施しました。「見守り」「災害」「健康」「認知症」などをテーマに、本会地域福祉課、介護福祉課職員が、それぞれの地域に出向いて説明し学びを深めました。（5か所）



地域で認知症学習～百千家満福祉連絡会～

## 【活動目標2】地域のだれもが安心できる居場所をつくろう

### ●当事者が安心できる居場所づくりを

「在宅介護者のつどい」と「子育てサロン」はコロナの感染予防対策により、休止が続いたことから開催数が減少しました。介護者のつどい（一宮5回、波賀4回）、子育てサロン（山崎6回）。また、老人クラブ連合会や身体障害者福祉協会、遺族会などの福祉団体についても、コロナの影響がある中で、事務局職員が運営を支援しました。



NPO 法人ひまわりの家を見学  
～一宮介護者の会 そよかせ～



リフレッシュできる時間を  
～やまさき子育てサロン～

### ●ひきこもりへの理解を深めるために

ひきこもり支援に取り組む意義について、職員間で共有する機会を増やしました。ひきこもりの現状や社協職員にできることなど学ぶ機会として研修会（3/5）を開催し意識の向上を図りました。また、ボランティア連絡会においても、ひきこもりをテーマに役員研修を行いました。



職員同士で学びの機会を  
～ひきこもり研修～



ひきこもりの居場所  
「歩歩」を見学  
～宍粟市ボランティア連絡会～

### ●感染予防や熱中症対策など情報を発信



コミュニティワーカーが地域に出向き  
活動を応援 ～嶋田ふれあい喫茶～

本会地域担当職員が、ふれあい喫茶やサロン、いきいき百歳体操などを再開される地域に出向いて、感染予防や熱中症対策など、さまざまな情報をお届けしました。コロナ禍で活動自粛の地域が多く、見守りや支え合いの活動を継続していくための具体的な提案が今後の課題です。  
(ふれあい喫茶・サロン：54 団体・128 回)



3密対策を徹底し  
万全の状態



ソーシャルディスタンスを保ちながら  
～鶴木いきいき百歳体操～

## 【活動目標3】 地域を支え合うネットワークの充実をはかろう

### ● 宍粟市を支える関係機関とのネットワークづくり

生活支援コーディネーターが  
地域課題への取組を報告  
地域包括ケア推進会議



本会職員（地域・介護）が、地域や個別の課題に対して、さまざまな話し合いの場に参加し専門性を発揮しました。「医療と介護連携会議」では、医師会も含めコロナ対応について協議し、介護保険マニュアルの見直しが行われました。「健康福祉部連携会議」では、感染予防や生活困窮者対策など話し合い、市健康福祉部との情報交換を密に行いました（年7回）。引き続き、地域・専門職・行政との連携を強めていきます。

### ● 地域を元気にする協議の場に

社協各支部に設置の「地域福祉推進委員会」を第2層（保健福祉圏域）協議体と位置づけ、地域課題や地域活性化に向けた意見などを出し合い、地域を元気にするための協議の場となるよう進めました。千種地域福祉推進委員会では、千種すぎの子こども園と千種高校の協力により、ひとり暮らし高齢者へお手紙を作成し、推進委員と本会職員がお届けしました。また、「支部かわら版」を発行するなど支部運営の活性化を図りました。



連合自治会・民協・福祉委員・  
JA・行政などで組織  
～一宮地域福祉推進委員会～

### ● 「買い物」の課題解決に向けて



気軽に立ち寄れる喫茶スペースを併設  
～「にこにこマーケット」の立ち上げを支援～



波賀町域で課題となっていた「買い物」の課題解決に向けて、「購買店整備委員会」に生活支援コーディネーターが参画し、12月に『にこにこマーケット』がオープンしました。地域のつながりとネットワークを活かし、地域の声を反映させるなど、オープン後も側面的な支援を行っています。また、28年度から移動販売車で地域を回っているひまわり号や平山ストアー（一宮）へ利用者の声を伝え新たなルート調整に取り組み、「魚が欲しい」と言う地域の声に対して、市外からの移動販売の調整を行うなど、必要なニーズに応えました。



お手紙でつながり  
～千種地域福祉推進委員会～



JAハリマからマックスバリュ  
に移行 ～ひまわり号～



魚が欲しいの声に  
～市外からの移動販売～



## 【活動目標5】だれもがだれかの役に…ボランティアの輪を広げよう

### ● “思いやりマスク” 1,297 枚が善意銀行に

市役所、市民局、社協各支部に「宍粟市善意銀行マスクポスト」を設置し（6/15～8/31）、市民の協力により1,297枚の寄付があり、市内就労支援事業所やグループホーム、保育所などに配布させていただきました。また、手作りマスクや雑巾が市民の方から多く寄せられました。



市内の福祉施設に届けました  
～善意銀行マスクポスト～



端切れを活用してマスクを製作  
～しろうエコの実～

### ●ボランティアの輪を広げるために

ボランティア・市民活動センターが、活動助成金の申請や保険加入の手続きなど活動をサポートする中で、コロナ禍で活動を自粛されたグループが多くあり、助成金を有効に活用できなかった報告を受けました（115グループ・164万円）。

また、「点字ボランティア講座」を7月に開催し、点字が視覚障がいの方の大切な情報ツールあることを学ぶ機会になりました。

社会貢献活動として、共同募金運動へ企業や団体に協力いただきましたが、新たな貢献活動の提案や発信が出来ませんでした。



点字をもっと身近なものにする点字ボランティア講座



地域活動の財源として  
～赤い羽根共同募金～



### ●コロナ禍の中、今できることで高校生が活躍



配食S利用者にお便りを  
～山崎高校生活創造科～



手作りマスクを寄付  
～伊和高校家庭部・ボランティア部～

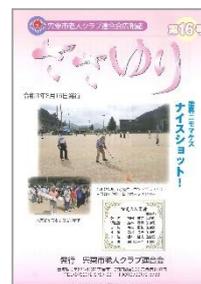


3年生に感謝状を贈呈  
～千種高校ボランティア部～

配達ボランティアをはじめ、配食サービス利用者へのメッセージカードのプレゼントやマスク（子ども用・大人用）の作製など、市内の高校生（山崎・伊和・千種）が、コロナ禍の中、ボランティアで活躍しました。

### ●高齢者の知識と経験を地域活動に

宍粟市老連広報誌「ささゆり」では、老人クラブ会員の知識や経験などさまざまな情報を発信しました。山崎支部老連では、会員の生きがいづくりと余暇活動を目的に「高齢者作品展」を行い、千種支部老連と小中学生による「しめ縄づくり交流会」は、コロナの感染予防対策により中止となりました。



ささゆり第16号



宍粟防災センターに  
約90点を展示  
～高齢者作品展～

●ボランティア連絡会はできる範囲の活動に

ボランティアの日の清掃活動  
 千種・一宮ボランティア連絡会



各町のボランティア連絡会は、ボランティア活動の自粛を余儀なくされる状況の中で、会議などで寄ること自体が難しく、できる範囲での活動に留まりました。その中で、清掃活動や交流事業、配食サービス利用者へのプレゼント企画など、各町の特性を活かした取り組みを実践しました。



グラウンド・ゴルフで交流  
 ～波賀ボランティア連絡会～



手作りマスクとマフラーを  
 ～山崎ボランティア連絡会～

【活動目標6】地域で防災・減災の意識を高めよう

●コロナの感染拡大により学習や訓練の機会が

コロナの感染拡大により、多くの自治会で地域活動が自粛される中で、学習の機会が持てませんでした。その中で、西公文自治会が防災学習会を開催し、ふくしの出前講座として本会職員が関わりました（8/4）。また、三津自治会でも防災士と連携した防災学習会を企画しましたが、市内に複数クラスターが発生した時期と重なり中止となりました。

「防災と福祉の連携による個別支援計画作成促進事業」として、介護支援専門員が、地域とともに在宅の高齢者（要支援者）の避難のための個別支援計画の作成（千種2件）に取り組みました。



災害に強いまちづくりを  
 ～西公文防災学習会～

●災害経験や記憶を風化させないために



1.17の追悼の祈りを込めて  
 ～やすらぎ福祉センター～



東日本大震災から10年  
 ～穴栗防災センター～

阪神淡路大震災と東日本大震災の追悼行事について、竹灯ろうづくりなどの事業ができない中で、本会ボランティア・市民活動センターと市ボランティア連絡会では、社協4支部（山崎・一宮・波賀・千種）の各センターにおいて、追悼の祈りを込めた、紙灯ろうやメッセージボードなど設置しました。

## 【活動目標7】暮らしを支える福祉サービスを充実させよう

### ●コロナの感染拡大が介護事業に大きく影響



介護福祉課から  
情報発信  
社協広報紙

コロナ禍で休止となる事業所もあり、本会も一時的に休止になりました。その間、ご利用者の生活への影響を最低限にするため、担当の介護支援専門員が中心となり、市内各サービス事業所と協力しながらサービス利用の継続を図りました。しかし、活動力の低下や会話不足など、健康状態悪化や認知機能低下した方も多くみられ、介護の見直しや入院・入所に至る方が増加しています。

また、介護職員が介護現場で培ってきたスキルや経験を活かし、トライやるウィークの受け入れや広報紙での情報発信などに取り組み、認知症サポーター養成講座や地元企業への出張講座などに介護支援専門員が協力しましたが、積極的な取り組みには至りませんでした。



デイサービス職員が  
介護実技を指導  
トライやるウィーク

### ●障がい関係の事業所もコロナが影響



コロナ禍での就労支援  
事業所の現状を紹介  
社協広報紙



相談支援専門員が障がいのある人の自立をサポート  
～あゆみ作業所～

介護事業と同様に、障がい関係の事業所にもコロナの影響が波及しました。そのため、一体的に感染予防やその取り組みについて横のつながりを持って取り組めるよう、宍粟市からの発信に繋がる関わりができました。また、障がいへの理解を深める取り組みについては、具体的な方法で取り組むことが課題となりました。

### ●コロナ禍で配食サービスを継続するために

緊急事態宣言や市内での複数クラスターの発生などにより、感染予防対策として2度にわたりサービスが休止となりました。その間、電話や訪問での安否確認、また、定期的におたより（絵手紙のメッセージ入り）を作り届けました。1月からは、市内仕出し業者の協力によりお弁当を確保し職員が配達。緊急事態宣言解除後の3月からは従来のボランティア（調理・配達）の協力で実施しました。



年4回発行  
～配食Sおたより～



休止のお知らせ  
～社協広報紙～



感染予防対策を徹底  
～調理ボランティア～



配達先を確認し出発  
～配達ボランティア～



地区ごとに集まり意見交換  
～配達ボランティア会議～

## ●判断能力に不安がある方の生活をお手伝い

日常生活自立支援事業専門員、担当職員、生活支援員が連携し、判断能力に不安がある方への支援を行い、必要な方には、成年後見制度の利用を含め適切な支援につなげ、新規や対応困難なケースについても、話し合いの場を持ちながら共有を図りました。12月の広報紙で「日常生活自立支援事業って？」をテーマに、事例を交えながら紹介し、市民に事業への理解を求めました（新規利用7件）。



専門員を中心に事業を展開  
～日常生活自立支援事業～

## 【活動目標8】地域の身近な相談を受けとめてつなごう

### ●関係機関と連携しさまざまな相談に対応

生活福祉資金、日常生活自立支援事業、介護サービス、障がい福祉サービスなど、関係機関と連携を取りながら相談に対応しました。無料法律相談は6月から再開し、社協契約の弁護士と関西大学法科大学院の弁護士が市民からの相談に対応しました（5回：34件）。また、社協広報紙の権利擁護のそだんコーナーでは、本会契約の弁護士がさまざまな相談に答えました（年6回）。



社協は困ったときの相談窓口  
～社協広報紙～



弁護士が市民からの相談に対応  
～無料法律相談～

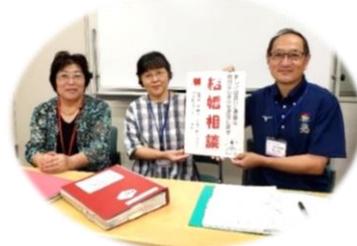


社協契約の弁護士に原稿を  
依頼～社協広報紙～

### ●結婚相談員の活動が制限される中で



ホームページをリニューアル  
婚活・恋活の情報を発信！  
～宍粟市出会いサポートセンター～



結婚相談員が婚活を応援  
～宍粟市結婚相談所～



フォレスト東山、青い家を会場に  
～婚活ミニ交流会～

結婚相談所の休止（年7回開設）や独身者への相談支援など、コロナの影響により結婚相談員活動が制限されました。その中で、成婚数が10件とこれまでの相談員活動が実を結びました。

また、多人数でのイベントからミニ交流会に切り替え出会いの場を提供し、相談申込フォームやイベント情報の発信などホームページのリニューアルを行いました。山崎と千種支部の結婚相談員は6月末で任期が満了し、7月から11名が新たな相談員として活動をスタートしました。

## ●行政と連携した生活困窮者支援



緊急小口資金・総合支援資金  
貸付件数：169件 相談数：601件  
これまでにないニーズに対応



### 生活協同組合コープこうべより食料品寄贈

・無洗米2kg×30袋 ・サトウの切り餅700g×20袋  
・コープヌードル12個入×15箱

生活協同組合コープこうべより、ハート基金(コープこうべ災害緊急支援基金)を通じて食料品をいただきました。今回いただいた食料品は、食のセーフティネット事業等に有効に使わせていただきます。



電話や来所と相談が相次ぎ  
～生活福祉資金～



食のセーフティネット事業  
食品寄付：33件 食品支援：27件

新型コロナの影響は大きく、コロナによる休業などを理由に生活費を必要とする方への生活福祉資金の貸付に関する相談は年間通して続きました。また、行政からの連絡を受け、生活に困窮されている方や、生活福祉資金の相談者などには、食のセーフティネット事業として、市民をはじめ、コープこうべ、ハチ食品などから提供いただいた食品・食材(カップ麺、レトルト、無洗米など)をお渡ししました。いずれも、市社会福祉課と連携しながら支援を行いました。

## 【社協目標1】住民から信頼される組織をつくります

### ●社会福祉法を遵守した法人運営を行うために

4月に宍粟市から譲渡を受けました「旧一宮保健福祉センター」を「やすらぎ福祉センター」に施設名を変更し、平成9年に完成したセンターの空調設備の老朽化に対応する設備改修工事を行いました。令和3年度には、市民のみなさんが安心して利用できるよう、屋内外、外部、設備など大規模改修工事に取り掛かります。



地域共生社会の拠点として  
～やすらぎ福祉センター～



事業報告・決算、事業計画・  
予算など慎重に審議  
～社協評議員会～



長年に渡りご尽力頂いた  
社協役員・結婚相談員に  
～社協功労者表彰～

理事会(執行機関)では、業務監査のため監事が毎回出席し、各理事それぞれの立場から経営や事業についての的確な助言を行い、評議員会(議決機関)においても活発な意見が出るなど、社会福祉法を遵守した法人運営を行うために、理事会、評議員会、監査機能の充実を図りました。

また、7月に居宅介護支援事業所と訪問介護事業所を統合し、10月から訪問入浴介護事業を休止し組織体制を見直しました。

## ●人材確保や育成、スキルアップが大きな課題

人材確保や育成のための具体的な提案や取り組みが進みませんでした。社協職員（専門職）の横のつながりとスキルアップを目的に事例検討会を一宮支部で行いましたが、今後も、社協の強みを活かすためにも職種間の連携が必要です。



それぞれの強みを活かすために  
～事例検討会～



福祉の将来を担う人材確保を  
～夏休みに大学生を受入れ～



4次計画をみんなで進めるために  
～支え合いふくしプラン研修会～

「支え合いふくしプラン研修会」を開催し、本会職員（地域・介護・総務）、理事、策定委員、兵庫県社協職員が参加しました。「社協職員として知らないことがたくさんあった」「社協内での横のつながりが大切だと分かった」など声が聞かれ、4次計画をみんなで進める意識を高める機会となりました（10/14）。

## ●感染症や災害への対応強化を図るために

宍粟市総合防災訓練（11月）に参加し、災害ボランティアセンター設置訓練を行う予定でしたが、コロナの感染予防対策として中止となりました。また、第4期災害救援ボランティア養成講座（8月）についても、コロナ禍で準備が進みませんでした。

その中で、感染症や災害への対応（業務継続に向けた取り組み）の強化として、事業継続計画（BCP）の指針づくりを始めており、3年度も取り組んでいきます。

## 【社協目標2】住民に必要な情報を広く伝えます

### ●情報収集のツールとしてオンラインが主流に

兵庫県社協など開催する会議や研修会に参加しましたが、コロナ禍でオンライン（WEB会議）での参加が主となる中で、総務課がオンライン環境を整備し、複数で参加できるなど、必要な情報など集めることができました。内部会議（ケアマネ調整会議、地域福祉課全体会議など）についてもオンラインで開催し、年間通して途切れることなく情報共有が図れました。

地域でのイベントや行事、交流活動が相次いで中止となる中で、情報収集が難しく、活動再開時には、職員が地域に足を運び情報収集に努めました。



WEB会議で情報交換  
～地域福祉課全体会議～



コロナ禍での近況を報告  
～養父市社協情報交換会～

## ●地域活動が自粛の中で必要な情報を発信

社協広報紙「こんにちは！社協です！！」では、新型コロナ感染拡大による地域活動の自粛など紙面に大きく影響しましたが、毎月必要な情報を発信しました。やすらぎ介護センターだより『ひだまり』は、デイサービスの様子や利用者・家族の声など毎月紹介しました。また、市や社協の広報紙、身体障害者福祉協会の会報など、朗読グループ「ふきのとう」「デイジー宍粟」協力のもと録音図書（CD・テープ）を作成し、目の不自由な方々へ情報をお届けしました。



福祉情報を毎月発行  
～こんにちは！社協です！！～



各支部の話題を収集  
～支部かわら版～



デイサービスの取組を  
毎月紹介 ～ひだまり～



一部をリニューアル  
ホームページに  
アップ

## 【社協目標3】 地域福祉活動財源の確保につとめます

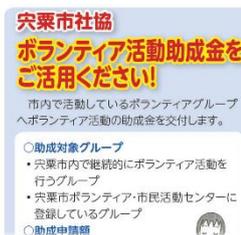
## ●活動財源への理解と協力を呼びかけながら



高齢者の生活支援や子どもたちが楽しめる遊具に  
～歳末たすけあい募金～



小地域福祉活動  
助成金は共同募  
金を活用



善意銀行預託金を  
ボランティア活動  
の財源に

善意月間（善意銀行預託金）、社協一般会費、赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金について、自治会を通じて活動財源への理解と協力を呼びかけました（自治会長宅に趣意書や募金袋、資材をお届けした）。

社協広報紙で、会費、募金、寄付金の使い道について紹介。市民からの強制や負担などの声もある中で理解を求めました。市民の方が納得できる使い道の提案が今後の課題です。

## ●地域福祉活動を安定して展開するために

社協が果たす役割を明確にし、地域福祉活動を安定して展開するために、市や県社協の補助事業・委託事業に取り組みました。また、木口福祉財団「2020年度地域福祉振興助成」に申し込み、44万円の交付を受け、高齢者疑似体験教材10セットを購入しました。今後も、民間団体が募集する助成事業について、該当する事業があれば積極的に活用します。



学校・地域・企業での体験学習に

## 第4次地域福祉推進計画を進める会 委員名簿

任期：令和3年3月24日～令和5年3月23日まで

(敬称略)

役職名	氏名	備考
委員長	藤原 誠	鷹巣活性化委員会事務局長
副委員長	薄木 喜久	宍粟市社会福祉協議会理事
委員	飯田 聡	宍粟市商工会経営支援第2課長
委員	世良 繁信	宍粟市教育委員会事務局次長・学校教育課長
委員	中村 圭三	訪問看護ステーションプラス看護師
委員	加藤 智子	健康運動指導士・元地域おこし協力隊員
委員	大路 貴広	NPO法人ピアサポートひまわりの家事務局長
委員	進藤 恭児	ハリマ農業協同組合理事
委員	大垣 陽子	山崎東放課後子ども教室「わくわくパーク」代表
委員	小沼 経子	コミュニティハウス青い家前代表
委員	植木 由喜子	宍粟市結婚相談員
委員	西中 登美子	社会福祉法人波賀の里福祉会（かえで園）副施設長
委員	亀井 欣也	宍粟市商工会理事
委員	三木 義彦	宍粟市健康福祉部次長
委員	上木 靖彦	社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会評議員
アドバイザー	戸田 達男	兵庫県社会福祉協議会地域福祉部長
役員	秋武 賢是	宍粟市社会福祉協議会会長

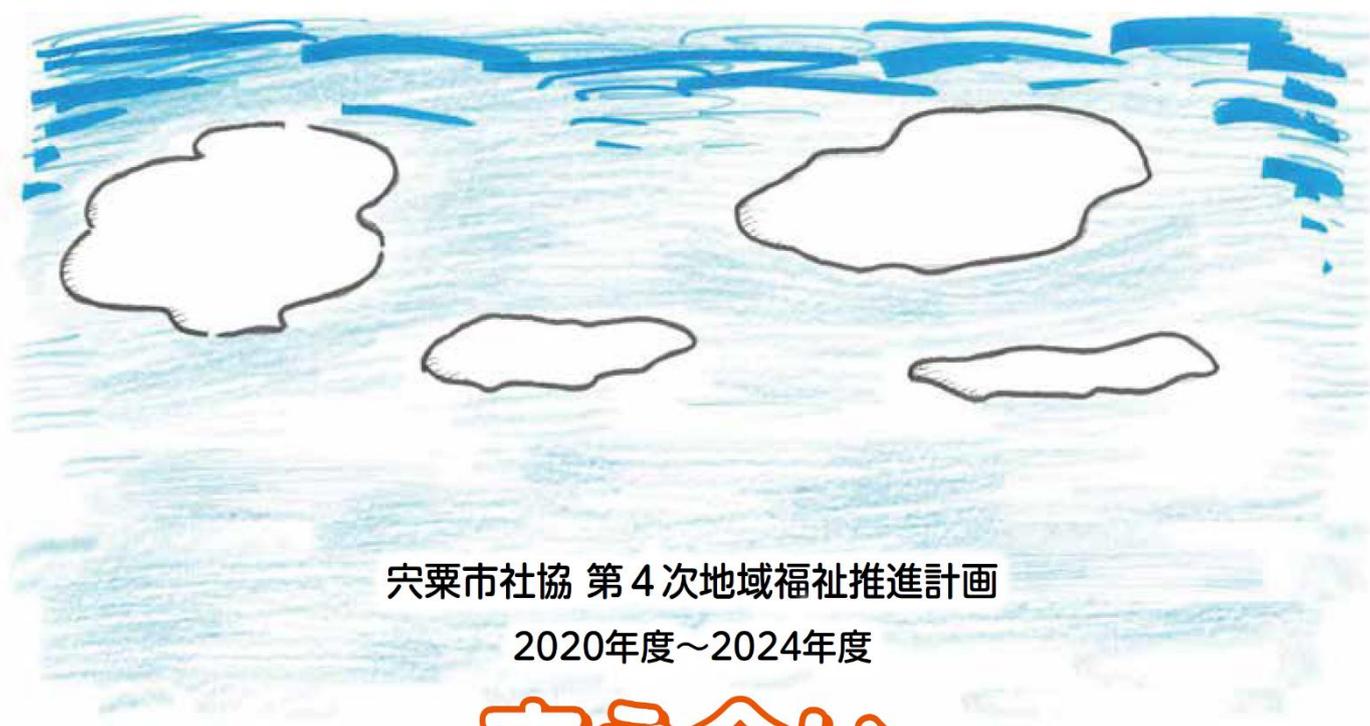


## 第4次地域福祉推進計画を進める会 職員名簿

氏名	役職名	備考
春名 章宏	事務局長	
春名 豊滋	事務局次長	一宮支部長
◎ 波多野 好則	地域福祉課長	山崎支部長
前野 瑞恵	総務課長	
東 由美	介護福祉課長	
坂本 幸子	地域福祉課副課長	波賀・千種支部長
○ 森井 裕矢	地域福祉課係長	コミュニティワーカー
山本 めぐみ	地域福祉課係長	コミュニティワーカー
田中 祥仁	地域福祉課係長	生活支援コーディネーター



◎主担当 ○副担当



宍粟市社協 第4次地域福祉推進計画

2020年度～2024年度

# 支え合い ふくしプラン

みんなですすめよう ふくしでまちづくり

～「ほっとけない」を ほっとかない宍粟に～



2021（令和3）年5月発行

編集・発行 社会福祉法人 宍粟市社会福祉協議会  
〒671-4137 兵庫県宍粟市一宮町間賀 300 番地  
電話 0790-72-8787 FAX 0790-72-8788

<http://www.shiso-wel.or.jp>

E-mail: [shakyo@shiso-wel.or.jp](mailto:shakyo@shiso-wel.or.jp)